



大田区の

「梅ちゃん先生たち」

区民の医療を支える 大勢の女性医師たち

東邦大学医療センター大森病院
(大森西5丁目)

区内最大の総合病院、東邦大学医療センター大森病院では、475人の医師が勤務しています。女性医師はこのうち130人、27%も。女性医師の全国平均19%と比べて格段に多いのは東邦大学医学部の前身が「帝国女子医学薬学専門学校」だからでしょうか。内科、小児科、眼科皮膚科、産婦人科といった女性の特性を発揮しやすい分野で多く活躍しています。

医療センター大森病院は区の連携拠点病院として、救急医療、夜間診療も行うために、若い医師の当直は月に5〜7回にもなるそうです。しかも当直明けは翌日夜までの36時間勤務。通常勤務が朝7時出勤、夜7、8時退出と聞けば、区民の安心を支えようとこの過酷な勤務をこなしている「梅ちゃん先生たち」に敬服するほかありません。

ちなみに夜間の小児科を覗いてみると、新米ママ・パパたちが不安顔で抱えている赤ちゃんや幼児で、昼間かと思うほどでした。「梅ちゃん先生たち」は、「病院のコンビニ化」と頼もしく言つてのけましたが、区では中学生までの医療費を助成。安易に緊急、夜間診療に行く傾向はないでしょうか。区内の医療機関は、一次から三次医療機関に分類されていて、それぞれの役割分担が決まっています。初期的な病気であれば「かかりつけ医」の診療所に。ことに乳幼児を持つ家庭は日頃から地域の診療所と相談を密にしたいもの、と考えさせられました。

キャリアを応援する 東邦大学の女性医師支援システム

さて医師となるためには、大学を卒業し、国家試験に合格して初期研修を行い、その後は、大学で診療をしながら研究に励む、一般病院で臨床に心血を注ぐ、開業医を目指すなど多様な選択肢があります。開業医となっても医学の進歩に合わせた研さんや、大学病院等の高次医療機関との連携が不可欠です。

先端医療を施し患者をサポートするには、よほど強い気持ちがないと、よければやり切れない面もあります。

キャリアを応援する 東邦大学の女性医師支援室

女性医師を取り巻く厳しい状況の中で、東邦大学では、いち早く「女性医師支援室」を設置し、女性医師が働き続けて能力を高め、キャリアアップを目指すことのできる体制を設けてきました。

支援内容は次の通りです。

★ベビーシッター育児支援

ベビーシッター費用の一部を補助

★病時保育室の設置

生後4か月から小学校低学年までの乳幼児および学童を預かる病児保育室を医療センター内に設置

★准研修医制度

過去の研修歴、勤務歴に照らし、子育て、介護等を果たすための短縮勤務が可能となり、それまで無給であった身分から、常勤として給与が支給され身分が保証されて、その期間も職歴として正式に評価する

★男女共同参画臨床研修

ワークライフバランスに配慮した様々なキャリアパスのプログラムの用意